大学・高専機能強化支援事業（支援２：高度情報専門人材の確保に向けた機能強化に係る支援）
【高等専門学校】実施状況報告書

選定年度	令和6年度	学校コード	G146110111726	改組内容	学科・コース等の設置・増員（高専）
高等専門学校名	鹿児島工業高等専門学校	設置区分	国立	事業計画名	鹿児島工業高等専門学校によるWell-beingな社会の実現に貢献する高度情報専門人材育成事業
学校種	高専	都道府県	鹿児島		

１.年度別の計画及び取組状況

年度別の事業計画（上欄：研究科等の設置等及びその準備（設置認可申請等）、下欄：教育環境の整備（施設整備、教員採用等）、教育活動の充実等の取組）と取組状況及び自己評価を記載してください。
当初計画から変更又は追加した取組は赤字で記載し、計画変更の承認を受けた計画については、末尾に承認日を赤字で記載してください。
計画の進捗の遅れや実施困難な事項がある等、自己評価が下位2つの場合には、課題（理由）とその対応を記載してください。計画通りに実施できており、その他課題がない場合に限り記載は不要です。

事業期間	事業計画	取組状況	自己評価、課題（理由）とその対応	
令和6年度	【情報系組織の入学定員】 情報工学科　入学定員　40人 3月 創造デザイン工学科（1学科5コース制）設置認可申請		令和6年度自己評価	【３】計画を十分に実施している。
	① 7月 創造デザイン工学科（１類，2コース，定員80名）学生数増のための新棟新築設計業務等 ② 8月 AI・DS教育のための教育支援体制整備 ~~③ 8月 PBL実施のための教室改修~~ ④ 8月 AI・DS教育のための教材のため ⑤ 9月DS研修，教員確保等のための国内大学等訪問 新棟新築設計業務について、当初の想定していた建設場所よりも学生のアクセス等を考慮するとともに、物価高騰による工事費見積価格が当初の予定を大きく上回ったため、当初の構想から変更する必要が生じ、計画変更を行った。 併せて、新棟建設地からの位置関係や学生のアクセスを考慮した結果、PBL実施のための教室改修を翌年度の実施へ計画変更を行った。 （R7.2.10承認） （削除となった項目） ・8 月 PBL実施のための教室改修	① 7月 創造デザイン工学科（１類，2コース，定員80名）学生数増のための新棟新築設計業務等（1年目） ② 8月 AI・DS教育のための教育支援体制整備 ④ 8月 AI・DS教育のための教材のため ⑤ 9月DS研修，教員確保等のための国内大学等訪問	新棟新築設計業務について、当初の想定していた建設場所よりも学生のアクセス等を考慮するとともに、物価高騰による工事費見積価格が当初の予定を大きく上回ったため、当初の構想から変更する必要が生じ、計画変更を行った。 併せて、新棟建設地からの位置関係や学生のアクセスを考慮した結果、PBL実施のための教室改修を翌年度の実施へ計画変更を行った。	
令和7年度	【情報系組織の入学定員】 情報工学科　入学定員　40人		令和7年度自己評価	【３】計画を十分に実施している。
	① 4月 創造デザイン工学科学生数増のための新棟新築工事（1年目）の実施（着工予定日：4月1日） ② 4月 AI・DS教育のための教育体制整備（特任助教2名採用，情報工学分野1名，経営工学分野1名） ③ 4月 AI・DS教育のための教育支援体制整備（DSコース事務補助員2名） ④ 8月 PBL実施のための教室改修 ⑤ 9月 創造デザイン工学Ⅰ実施のための教材準備 ⑥ 9月 教員確保のための国内大学等訪問	① 4月 創造デザイン工学科学生数増のための新棟新築工事（1年目）の実施（着工予定日：8月1日） ② 4月 AI・DS教育のための教育体制整備（特任助教2名採用，情報工学分野1名，経営工学分野1名） ③ 4月 AI・DS教育のための教育支援体制整備（DSコース事務補助員2名） ④ 8月 PBL実施のための教室改修 ⑤ 9月 創造デザイン工学Ⅰ実施のための教材準備 ⑥ 3月 教員確保のための国内大学等訪問		
令和8年度	4月 創造デザイン工学科（1学科5コース制）設置 高度情報専門人材育成コース（コンピュータサイエンスコース・データサイエンスコース）の入学定員80人 8月新棟完成		令和8年度自己評価	リストから選択してください。
	① 4月 創造デザイン工学科学生数増のための新棟新築工事（2年目）の実施（竣工予定日：８月３１日） ② 4月 AI・DS教育のための教育体制整備（特任助教１名，情報数学・統計等担当） ③ 4月 AI・DS分野の教育のための体制整備 （情報系科目担当非常勤教員2人採用） ④ 4月 AI・DS分野の教育のための体制整備 （PBL科目担当非常勤教員2人採用） ⑤ 4月 AI・DS教育のための教育支援体制整備（DSシステム管理者2名，DSコース事務補助員2名） ⑥ 4月 創造デザイン工学Ⅰ実施のための教材準備 ⑦情報センター内PC室機械学習用PCリース，500千円×50台×12か月（４年契約の１年目） ⑧情報センター内環境整備，デスク110台，高速NASシステム，スイッチングハブ ⑨9月 PBL実施のための教室改修 ⑩8月 情報センター内高速ネットワーク環境構築工事 ⑪教員確保のための国内大学等訪問			
令和9年度			令和9年度自己評価	リストから選択してください。
	① 4月 AI・DS教育のための教育体制整備（特任助教1名採用，機械学習系分野） ②4月 AI・DS教育のための教育体制整備（特任助教1名）DS科目（情報数学系科目担当のため） ③ 4月 AI・DS分野の教育のための体制整備 （情報系科目担当非常勤教員4人採用） ④ 4月 AI・DS分野の教育のための体制整備 （PBL科目担当非常勤教員4人採用） ⑤ 4月 AI・DS教育のための教育支援体制整備（DSシステム管理者2名，DSコース事務補助員2名） ⑥ 4月 情報センター内PC室機械学習用PCリース，1000千円×100台×12か月（50台：4年契約の2年目，50台：4年契約の1年目） ⑦ 情報センター内環境整備，デスク40台，高速NASシステム，スイッチングハブ ⑧ 4月 創造デザイン工学Ⅱ実施のための教材準備 ⑨ 教員確保のための国内大学等訪問			
令和10年度			令和10年度自己評価	リストから選択してください。
	① 4月 AI・DS教育のための教育体制整備（特任助教1名採用，経営工学系分野） ②4月 AI・DS教育のための教育体制整備（特任助教1名）DS科目（機械学習系科目担当のため） ③ 4月 AI・DS分野の教育のための体制整備 （情報系科目担当非常勤教員5人採用） ④ 4月 AI・DS分野の教育のための体制整備 （PBL科目担当非常勤教員3人採用） ⑤ 4月 AI・DS分野の教育のための体制整備 （DS系科目担当非常勤教員3人採用） ⑥4月 AI・DS教育のための教育支援体制整備（DSシステム管理者2名，DSコース事務補助員3名） ⑦4月 創造デザイン工学Ⅱ実施のための教材準備 ⑧ 4月 情報センター内PC室機械学習用PCリース，1000千円×100台×12か月（50台：4年契約の3年目，50台：4年契約の2年目） ⑨ 9月 教員確保のための国内大学等訪問			
令和11年度			令和11年度自己評価	リストから選択してください。
	① 4月 AI・DS教育のための教育体制整備（特任助教1名）DS科目（機械学習系科目）担当のため ②4月 AI・DS教育のための教育体制整備（特任助教1名）DS科目（経営工学系科目担当のため） ③ 4月 AI・DS分野の教育のための体制整備 （情報系科目担当非常勤教員4人採用） ④ 4月 AI・DS分野の教育のための体制整備 （PBL科目担当非常勤教員1人採用） ⑤ 4月 AI・DS分野の教育のための体制整備 （DS系科目担当非常勤教員10人採用） ⑥ 4月 AI・DS教育のための教育支援体制整備（DSシステム管理者2名，DSコース事務補助員3名） ⑦ 4月 情報センター内PC室機械学習用PCリース，1000千円×100台×12か月（50台：4年契約の4年目，50台：4年契約の3年目） ⑧ 4月 DSコース科目（DS基礎）実施のための教材準備 ⑨ 9月 教員確保のための国内大学等訪問			
令和12年度			令和12年度自己評価	リストから選択してください。
	① 4月 AI・DS分野の教育のための体制整備 （情報系科目担当非常勤教員4人採用） ② 4月 AI・DS分野の教育のための体制整備 （DS系科目担当非常勤教員8人採用） ③4月 AI・DS教育のための教育支援体制整備（DSシステム管理者2名，DSコース事務補助員3名） ④ 4月 情報センター内PC室機械学習用PCリース，1130千円×100台×12か月　（50台：4年契約の1年目，50台：4年契約の4年目） ⑤ 4月 DSコース科目（DS応用）実施のための教材準備 ⑥ 9月 AI・DS分野のPBL科目の一部を担当するための講師謝金			
令和13年度			令和13年度自己評価	リストから選択してください。
	① 4月 情報センター内高速NASシステム更新 ② 4月 PBL科目で使用する教材の更新 ③ 4月 AI・DS教育のための教育支援体制整備（DSシステム管理者2名） ④ 4月 情報センター内PC室機械学習用PCリース，1130千円×100台×12か月（50台：4年契約の2年目，50台：3年契約の1年目） ⑤ 9月 AI・DS分野のPBL科目の一部を担当するための講師謝金			
令和14年度			令和14年度自己評価	リストから選択してください。
	① 4月 情報センター内高速NASシステム更新 ② 4月 PBL科目で使用する教材の更新 ③ 4月 AI・DS教育のための教育支援体制整備（DSシステム管理者2名） ④ 4月 情報センター内PC室機械学習用PCリース，1130千円×100台×12か月（50台：4年契約の3年目，50台：3年契約の2年目） ⑤ 9月 AI・DS分野のPBL科目の一部を担当するための講師謝金			
令和15年度			令和15年度自己評価	リストから選択してください。
	①4月 PBL科目で使用する教材の更新 ② 4月 AI・DS教育のための教育支援体制整備（DSシステム管理者2名） ③4月 情報センター内PC室機械学習用PCリース，1130千円×100台×12か月（50台：4年契約4年目，50台：3年契約の3年目） ④ 9月 AI・DS分野のPBL科目の一部を担当するための講師謝金			

フォローアップ対象年度	令和7年度	高等専門学校名	鹿児島工業高等専門学校

2.申請資格の確認

ⅰ） 学生募集停止中の大学
ⅱ） 学校教育法第109条の規定に基づき文部科学大臣の認証を受けた者による直近の評価の結果、「不適合」の判定を受けている大学
ⅲ） 「私立大学等経常費補助金」において、定員の充足状況に係る基準以外の事由により、前年度に不交付又は減額の措置を受けた大学
ⅳ） 設置計画履行状況等調査において、「指摘事項（法令違反」が付されている大学
ⅴ） 大学、短期大学及び高等専門学校の設置等に係る認可の基準（平成15年文部科学省告示第45号）第２条第１号又は第２号のいずれかに該当する者が設置する大学

上記項目の申請資格の状況について、プルダウンで選択してください。（プルダウンの選択肢：すべての項目に該当していない、右の〇の項目に該当している）

申請資格の状況	ⅰ）	ⅱ）	ⅲ）	ⅳ）	ⅴ）
すべての項目に該当していない					

3.申請要件の取組状況

① 高等教育の修学支援新制度において、大学等における修学の支援に関する法律に基づき、財務状況や収容定員充足率が適正であることを含めた要件を満たすことの確認を受けた高等専門学校であること。なお、新設予定の高等専門学校で、応募時点において、高等教育の修学支援新制度における要件確認の対象に該当しないものは、本要件は適用されない。

② 志願者数の状況や入学定員及び収容定員充足率等を踏まえた十分な学生確保の見通しを備えた計画となっていること。

③ 産業界を含む社会のニーズ等を踏まえ、学修目標の具体化、体系的な教育カリキュラムの編成及び高等専門学校での学修に必要な資質・能力等を評価する入学者選抜が適切に実施され、そのための体制を構築する計画となっていること。（その際、国際的な質保証の枠組みを活用するなど出口における質保証にも十分留意することが重要。）

④ 特定成長分野のうちデジタル分野の人材を育成するための戦略、適切な管理・教育体制や教育研究環境の整備を図る計画となっていること。

⑤ 計画の対象となる学科・コース等において、実務経験のある教員等による授業科目を配置する計画となっていること。

⑥ 特定成長分野のうち情報系分野に係る学科・コース等の設置・増員（学科の定員の増員を伴わないものを含む。以下「学科・コース等の設置等」という。）を行う計画であり、学位種類分野変更基準に定める工学関係の学位の分野に係るものであること。なお、コース等の設置・増員による体制強化の場合は、学則において、コース等の募集人員数を明記する計画であること。

⑦ 社会において具体的な人材ニーズが現に存在する、又は、その十分な見通しのある分野に係る学科・コース等の設置等の取組であること。

⑧ 機構による事業計画の選定があった日から２年を経過する日を含む年度の末日までに、計画の対象となる学科・コース等の設置等を行う計画であること。

⑨ 計画の対象となる学科・コース等の設置等において、20名以上の入学定員の増員を行う計画であること。

⑩ 国立高等専門学校について、学校全体の収容定員の増員を伴う学科定員の増員を行う場合は、定員増を行った日から10年を経過した日までに、他学科・他コース等を中心に同規模の定員減を行う計画であること。

⑪ 教員の確保・配置状況等を踏まえた実現可能性の高い計画になっていること。

⑫ 文部科学省が実施する数理・データサイエンス・ＡＩ教育プログラム認定制度における「リテラシーレベル」の認定を受けていること。

上記項目の①～⑪の申請要件について、　令和7年度　の取組の状況についてプルダウンで選択してください。（プルダウンの選択肢：すべての項目が要件を満たしている、右の〇の項目の要件を満たしていない）

申請要件の状況	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪
すべての項目が要件を満たしている											

①～⑪の要件を満たしていない又は対象でない項目がある場合、左欄に該当する申請要件を選択し、右欄に課題（理由）とその対応について記載してください。

項目	課題（理由）

⑫については、現在の状況をプルダウンより選択してください。

申請要件⑬,⑭について	現在の状況
⑫文部科学省が実施する数理・データサイエンス・ＡＩ教育プログラム認定制度における「リテラシーレベル」の認定を受けていること。	認定を受けている

4.審査要項における確認項目の計画及び取組状況

令和7年度 の取組実績及び申請時の計画を記載してください。取組実績は会社名や大学名、定量的なデータ等を示し具体的に記載してください。検討中であっても状況を記載してください。
計画の進捗の遅れや実施困難な事項がある場合には、課題（理由）とその対応を記載してください。計画通りに実施できており、その他課題がない場合に限り記載は不要です。

① 地域において自治体や企業等と連携した取組を行う計画となっているか。

申請時の計画	取組実績、進捗状況	課題（理由）とその対応
本校では約100社の地域ものづくり企業団体(KTC)に加えて、京セラやNECといった企業、霧島市や長島町といった自治体と包括連携協定を結んでおり、これらの企業や自治体 と連携したPBL系科目をすべての学年に配置する。企業との共同教育の具体例として，NECと包括連携協定を結び，DX人材育成，デジタル技術による地域課題解決などの連携教育に既に取り組んでいる．また地域主産業である第1次産業のIT化，DX化をテーマとした共同教育を自治体（長島町）と連携して実施している．情報系2コースを中心に，これらを発展させ以下のPBL系科目等の教育を進める。まず、1年から3年までの全学生が受講するPBL系科目である創造デザイン工学Ⅰ～Ⅲでは情報データ科学の知識に基づいて、地域課題の抽出・解決策の提案、実証試験などに取り組む。また、4年後期から、卒業研究Ⅰを設置し、最先端企業との共同教育・研究を行う。さらに、卒業研究Ⅰと創造デザイン工学Ⅰ～Ⅲにおいて、コース横断・学年縦断の教育を展開し、教育効果を高め学生の自主性を涵養する。これらの教育を進めるにあたり、情報センター内のデータセンターやDX実証ラボを活用する。DX実証ラボにて得られた教育・研究成果は自治体や企業に還元し、地域や企業のDX化推進の拠点としての役割を担う。また、企業エンジニアによる講義や講演などの充実を図り、既存の教育プログラムでは学べない先端技術の教育を実践する。正課カリキュラムとしては、「リベラルアーツ特別講義」、「地域創成特別講義」などを設置し、時代の流れに即した企業との共同教育を推進する。	・東京高専、北九州高専を中心に実施しているMCC plus ロボット分野に本校も協力校として参画しており、電子制御工学科３年生で開講されている「電子回路Ⅱ」の中で株式会社安川電機による出前授業を対面で実施した。今後もシミュレータ等を活用したロボット教育の内容を充実させる準備を進めている。 ・地域ものづくり企業団体（KTC）を通して、地域と連携して新学科における教育研究を展開する準備を進めた。R7年６月に開催されたKTC技術研修会にて、新学科の教育・研究、その他取組をKTC企業全体に周知を行った。 ・PBL系科目を通した地域連携を実現するために、昨年度組織したPBL系科目に関する学内ワーキンググループにおいて、創造デザイン工学Ⅰ～Ⅲにおいて、コース横断・学年縦断の教育をシームレスに展開するための準備を継続して進めている。 ・PBL系科目を通した地域連携を実現するために、昨年度組織した施設を有効活用するための学内ワーキンググループにおいて、新たに教育施設やDX実証ラボなどを整備するための協議を行った。	

② 初等中等教育段階の学校との連携に関する取組を行う計画となっているか。

申請時の計画	取組実績、進捗状況	課題（理由）とその対応
本校では、初等中等教育段階の学校との連携を深めるために、令和4年度にSTEAM教育支援室を設置し、活動を行っている。STEAM教育支援室は、自治体（教育委員会）と連携して出前講座や来校型講座を実施している。講座数としては、令和4、5年度には13テーマを実施した。令和4年度における延べ参加者数は小中学生97名、保護者74名でアンケート調査の結果、 97.8%が講座に満足しているとの結果が得られた。その他にも、学生のボランティア活動としてRobogals Kagoshima(※)、部活動による出前授業、サイバー防犯教室、グローバルに関連した出前授業等を積極的に実施している。STEAM教育支援事業や学生のボランティア活動に高度情報専門人材育成コースの教育ノウハウや成果等を組込み、理系人材の発掘や確保に努める。 また、高等学校に代表される後期中等教育機関に対しては、すでに本校で実施している高等学校教員向けのICTに関するパワーアップ研修(※※)などをより一層推進していく。 （※）Robogals Kagoshimaは、国際的ボランティア団体であるRobogalsから、2017年に日本で3番目の支部として認定を受け、技術者を目指す理工系女子の増加を目的に活動している。 (※※) パワーアップ研修とは、鹿児島県が実施している中堅教諭に対して個々の能力や適性等に応じた能力向上を目的とした研修である。	・STEAM教育支援室を中心にSTEAM教育を実施し、延べ33校、2370名に対して出前授業を行い、学内での公開講座を延べ24回行い、小中学生200名が参加した。 ・鹿児島県警から委嘱を受けた本校学生8名がサイバーセキュリティボランティアとして、小学校等で6回の講話等を行った。 ・本校において7月30日に鹿児島県中堅教諭向けのパワーアップ研修を実施し、「情報処理（Excelと動画作成）」のテーマで中、高校教員6名が参加した。 ・本校学生で組織する「Robogals Kagoshima」が講師となり、女子小中学生向けの出前講座を3回実施した。	

③ 女子学生、社会人学生、留学生等の確保に向けた特色ある取組を行う計画となっているか。

申請時の計画	取組実績、進捗状況	課題（理由）とその対応
女子学生確保のための特色ある取り組みとして、データサイエンスを中心とした文理融合教育の推進，CPS（サイバー・フィジカルシステム）を活用した教育・研究の展開、デザイン教育の拡充に取り組む。また、社会人学生の獲得のための活動を充実させる。これらの教育拡充の拠点となるのがデータサイエンス棟（仮称）のデータセンターやDX実証ラボである。まず、上述のRobogals Kagoshimaをはじめとする学生ボランティア活動を活用する。主な活動は小中学生に向けた出前型のワークショップで工学を学ぶ楽しさを伝えるためにロボットのプログラミングを教えている。離島を含めた鹿児島県内の様々なイベントに参加している。さらに、Robogals Kagoshimaの活動は鹿児島県内に留まらず、海外との交流を行っている（2017年、オーストラリア、Robogals SINE 2017）（2018年、イギリス研修）。これらの活動を通して、理系女子の確保に努める。社会人学生獲得の活動として、既に社会人対象公開講座を実施している。その他、DX実証ラボを活用しエグゼクティブビジネススクールを社会人向けの教育（リスキリング）を展開する予定である。 さらに、本校はキャンパスのグローバル化に関する取り組み（高専機構主催の国際セミナーJSTS2022、2023やKOSEN Global Camp 2024など）を進めている。今後は海外大学での長期アカデミックインターンシップなどを拡充する予定である。これらの活動を通して留学生の確保を目指す。	・本校学生で組織する「Robogals Kagoshima」が講師となり、女子小中学生向けの出前講座を3回実施した。 ・本校において、「KOSEN Global Camp 2026 Kagoshima」を開催し、本校学生10名に加え、他高専から10名、海外からはマレーシア6名、スウェーデン7名、台湾3名の計26名、総勢36名が参加しキャンパスのグローバル化を推進した。 参加者の内スウェーデンからの留学生2名は、短期留学生として引き続き2名本校に在籍し、学生との交流、研究等を行っている。 ・KTC会員企業において本校教員が講師となるリスキリング教育を実施し、「MATLABを用いたディジタル信号処理入門」をテーマに開講し、地域企業から6名が参加した。また、「Pythonを使った機械学習（回帰分析）入門」をテーマに開講し、地域企業及び本校教職員から17名が参加した。	

④ 他の大学（外国大学を含む。）・高等専門学校等と連携した取組を行う計画となっているか。

申請時の計画	取組実績、進捗状況	課題（理由）とその対応
長岡技術科学大学や豊橋技術科学大学とは、連携協定を結んでいる．長岡技術科学大学との連携実績として、地域課題（第一次産業）をテーマとしたPBLや第一次産業と工学を融合分野での共同研究の推進、国際セミナー（JSTS2022、2023）の実施等、既に関係構築がなされている。長岡技術科学大学に既設の、「数理データサイエンス教育研究センター」や「DXものづくりラボ」等の知見を活用し、本校における高度情報専門人材育成教育を推進する。また、鹿児島高専内には豊橋技術科学大学のサテライトオフィスが設置されており、共同研究や人材育成を進めている。今後もこれらの枠組みを活用し、データサイエンスやDX推進などの実践的教育、共同研究の推進、非常勤教員や特命教員の採用活動、あるいは高専-大学連携による専門教員育成を進める。 また、北九州高専が中心となって進める社会のDX推進活動（第4次産業革命エグゼクティブビジネススクール構想）に、本校の教員も深く携わっている。この連携を生かし、DX実証ラボ等での教育・研究の充実を図る。 さらに、本校では地元鹿児島大学と連携して、「教員採用における学位取得支援プログラム」を展開する。このプログラムは、項目⑪で述べたように、教員の確保のために重要である。10年間の事業継続間に新コースを卒業し、鹿児島大学に編入、その後同プログラムを活用して鹿児島高専の教員となる、というケースの実現を目指す。	・東京高専、北九州高専を中心に実施しているMCC plus ロボット分野に本校も協力校として参画しており、電子制御工学科３年生で開講されている「電子回路Ⅱ」の中で株式会社安川電機による出前授業を対面で実施した。今後もシミュレータ等を活用したロボット教育の内容を充実させる準備を進めている。 ・豊橋技術科学大学との連携協定，サテライトオフィスを活用した半導体人材育成教育を進めている．直近では、R7年4月21日にオンライン協議を行った。 ・地元鹿児島大学との連携「教員採用における学位取得支援プログラム」を展開するために、あるいは本事業を推進するうえで不可欠の教員採用を実現するために、他大学等へ本校の取組に関する情報展開を行った。具体的には関西大学、岡山県立大学にて本校教員による情報展開を行った。 ・志學館大学及び鹿屋体育大学と連携協定を締結した。特に志學館大学との協定より、本校から情報人材育成のための講師を派遣することで調整を行っている。	

⑦ 文部科学省が実施する数理・データサイエンス・ＡＩ教育プログラム認定制度について、申請要件である「リテラシーレベル」に係る要件を満たすのみならず、更に「応用基礎レベル」の認定を受けている、又は「応用基礎レベル」の認定を受ける計画があるか。

申請時の計画	取組実績、進捗状況	課題（理由）とその対応
新コースⅠ類を中心に数理データサイエンス・AI教育プログラム「応用基礎レベル」認定を受ける。これを達成するための科目として、1年次には情報技術基礎、確率統計、創造デザイン工学Ⅰを新設する。また、2年次には創造デザイン工学Ⅱ、3年次には創造デザイン工学Ⅲを新設する。これらの科目の学習を持って「応用基礎レベル」の認定を目指す。 対象となる学年は、改組をスタートさせる令和8年度以降の入学生であり、令和11年度に認定申請、令和12年度に認定を受ける計画である。	・新学科における新設科目「創造デザイン工学Ⅰ～Ⅲ」の授業内容について、PBL創造デザイン系ワーキンググループを立ち上げ、数理・データサイエンス・ＡＩ教育プログラム認定制度「応用基礎レベル」モデルコアカリキュラムを基に検討を行った。 ・新学科開始後に、数理・データサイエンス・AI教育プログラム「応用基礎レベル」の認定を受ける前段階として、現在の学科、カリキュラムにおいて同プログラム「応用基礎レベル」の申請を行う準備を進めた。R8年４月現在、現在の５学科体制でのカリキュラムを基に、R6年度以降入学者を対象とした認定申請を行い、令和7年8月26日付で認定を受けた。今後新学科におけるカリキュラムでの認定受けることができるよう準備を進める。	

高等専門学校名	鹿児島工業高等専門学校	改組内容	学科・コース等の設置・増員（高専）

1.本事業対象となる情報系組織の状況

<合計>

年度				R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度	R12年度	R13年度	R14年度	R15年度	R16年度	R17年度	R18年度	R19年度	R20年度	R21年度	R22年度	R23年度	R24年度
大区分	小区分	項目	単位																			
	事業計画に定める定員	入学定員	人	-	-	80	80	80	80	80	80	80	80									
	事業計画に定める定員	編入学定員	人																			
学生の入学・在籍状況	入学者合計	入学定員(A)	人	-	-	80	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE
		入学者数(B)	人	-	-	82	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE
		女子学生数	人	-	-	16	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE
		社会人学生数	人	-	-	0	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE
		留学生数	人	-	-	0	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE
		入学定員充足率（B/A）	倍	-	-	1.03			-		-			-		-			-			-
	収容定員等	収容定員(C)	人	-	-	80	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE
		編入学定員	人	-	-	0	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE
		在籍者数(D)	人	-	-	82	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE
		編入学者数	人	-	-	0	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE
		収容定員充足率（D/C）	倍	-	-	1.03			-		-			-		-			-			-
卒業後の状況	卒業者数等	卒業者数	人	-	-	-			-		-			-		-			-			-
		就職者数	人	-	-	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE
		進学者数	人	-	-	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE
		その他	人	-	-	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE
		進路不明	人	-	-	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE
教員の状況	実務経験のある教員の参画	教員数	人	-	-	26	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE
		授業科目の単位数	単位	-	-	36	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE

高等専門学校名	鹿児島工業高等専門学校	改組内容	学科・コース等の設置・増員（高専）

本事業対象となる学部等の個数	2

1.本事業対象となる情報系組織の状況

<内訳>

(1)

改組組織名	創造デザイン工学科　コンピュータサイエンスコース

大区分	小区分	年度 / 改組状況 / 項目	単位	R6年度 選定	R7年度 届出	R8年度 開設	R9年度	R10年度	R11年度	R12年度	R13年度	R14年度	R15年度	R16年度	R17年度	R18年度	R19年度	R20年度	R21年度	R22年度	R23年度	R24年度
	事業計画に定める定員	入学定員	人	-	-	40	40	40	40	40	40	40	40									
		編入学定員	人																			
学生の入学・在籍状況	入学者合計	入学定員(A)	人	-	-	40																
		入学者数(B)	人	-	-	41																
		女子学生数	人	-	-	8																
		社会人学生数	人	-	-	0																
		留学生数	人	-	-	0																
		入学定員充足率（B/A）	倍	-	-	1.03																
	収容定員等	収容定員(C)	人	-	-	40																
		編入学定員	人	-	-	0																
		在籍者数(D)	人	-	-	41																
		編入学者数	人	-	-	0																
		収容定員充足率（D/C）	倍	-	-	1.03																
卒業後の状況	卒業者数等	卒業者数	人	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
		就職者数	人	-	-																	
		進学者数	人	-	-																	
		その他	人	-	-																	
		進路不明	人	-	-																	
教員の状況	実務経験のある教員の参画	教員数	人	-	-	13																
		授業科目の単位数	単位	-	-	18																

高等専門学校名	鹿児島工業高等専門学校

(2)

改組組織名	創造デザイン工学科　データサイエンスコース

大区分	小区分	年度 / 改組状況 / 項目	単位	R6年度 選定	R7年度 届出	R8年度 開設	R9年度	R10年度	R11年度	R12年度	R13年度	R14年度	R15年度	R16年度	R17年度	R18年度	R19年度	R20年度	R21年度	R22年度	R23年度	R24年度
	事業計画に定める定員	入学定員	人	-	-	40	40	40	40	40	40	40	40									
		編入学定員	人																			
学生の入学・在籍状況	入学者合計	入学定員(A)	人	-	-	40																
		入学者数(B)	人	-	-	41																
		女子学生数	人	-	-	8																
		社会人学生数	人	-	-	0																
		留学生数	人	-	-	0																
		入学定員充足率（B/A）	倍	-	-	1.03																
	収容定員等	収容定員(C)	人	-	-	40																
		編入学定員	人	-	-	0																
		在籍者数(D)	人	-	-	41																
		編入学者数	人	-	-	0																
		収容定員充足率（D/C）	倍	-	-	1.03																
卒業後の状況	卒業者数等	卒業者数	人	-																		
		就職者数	人	-																		
		進学者数	人	-																		
		その他	人	-																		
		進路不明	人	-																		
教員の状況	実務経験のある教員の参画	教員数	人	-	-	13																
		授業科目の単位数	単位	-	-	18																

高等専門学校名	鹿児島工業高等専門学校	改組内容	学科･コース等の設置･増員（高専）

2.情報系組織の状況

大区分	小区分	項目	単位	R6年度 選定	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度	R12年度	R13年度	R14年度	R15年度	R16年度	R17年度	R18年度	R19年度	R20年度	R21年度	R22年度	R23年度	R24年度
	入学者合計	入学定員（A）	人	40	40	80																
		入学者数（B）	人	42	42	82																
		女子学生数	人	12	7	16																
		社会人学生数	人	0	0	0																
		留学生数	人	0	0	0																
		入学定員充足率（B/A）	倍	1.05	1.05	1.03																
	収容定員等	収容定員(C)	人	200	200	200																
		編入学定員	人	0	0	0																
		在籍者数(D)	人	208	206	208																
		編入学者数	人	2	1	2																
		収容定員充足率（D/C）	倍	1.04	1.03	1.04																
卒業後の状況	卒業者数等	卒業者数	人	43	38																	
		就職者数	人	25	24																	
		進学者数	人	18	13																	
		その他	人	0	1																	
		進路不明	人	0	0																	
教員の状況	実務経験のある教員の参画	教員数	人	11	13	13																
		授業科目の単位数	単位	17	17	18																

高等専門学校名	鹿児島工業高等専門学校	改組内容	学科・コース等の設置・増員（高専）

3.高等専門学校全体の状況

年度				R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度	R12年度	R13年度	R14年度	R15年度	R16年度	R17年度	R18年度	R19年度	R20年度	R21年度	R22年度	R23年度	R24年度
大区分	小区分	項目	単位																			
	入学者合計	入学定員（A）	人	200	200	200																
		入学者数（B）	人	209	210	208																
		入学定員充足率（B/A）	倍	1.05	1.05	1.04																
	収容定員等	収容定員（C）	人	1,000	1,000	1,000																
		編入学定員	人	0	0	0																
		在籍者数（D）	人	1,047	1,043	1,055																
		編入学者数	人	12	12	9																
		収容定員充足率（D/C）	倍	1.05	1.04	1.06																

4.外部資金の状況（全学）

年度		R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度	R12年度	R13年度	R14年度	R15年度	R16年度	R17年度	R18年度	R19年度	R20年度	R21年度	R22年度	R23年度	R24年度
項目	単位																			
外部資金獲得額	千円	104,895	120,685																	

特記事項

・令和6年度編入学定員0人とは、若干名を意味している。
・令和7年度編入学定員0人とは、若干名を意味している。
・令和8年度編入学定員0人とは、若干名を意味している。
・入学定員については、類毎に定めているため、数値が確定次第修正します。